

[023] 比較社会文化研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4495915>

出版情報：比較社会文化研究. 23, 2008-03-01. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

編集後記

執筆者ほか多数の関係者の方々のご協力により、『比較社会文化研究』第23号を刊行することができました。ここに心からの感謝の意を表します。

20世紀の偉大な思想家の一人であるマックス・ウェーバーは以下のように述べています。「自己を滅して専心すべき仕事を、逆になにか自分の名を売るための手段のように考え、自分がどんな人間であるかを「体験」で示してやろうと思っているような人…(中略)…こうした人々は、学問の世界では間違いなくなんら「個性」のある人ではない」(尾高邦雄訳、『職業としての学問』、岩波文庫版、28頁)。ウェーバーに関する細かい議論やここでいわれている「個性」とは何かということは脇に置くとして、少なくとも学問に臨む態度として、ウェーバーの述べていることは心に留めておくべきではないでしょうか。

今回の23号には18名のエントリーがあり、指導教官の承認を経た9名の論稿が掲載されています。政治学、文学、言語学、社会学、哲学等、様々な研究分野から寄せられたこれらの論文は、まさに各人が学問的研究に「自己を滅して専心」した結果生れた意欲作であり、多様な分野の研究者が集う本学府院生の日々の努力の賜物であります。

ウェーバーはまた、「学問上の「達成」はつねに新しい「問題提出」を意味する」(同上、30頁)とも述べています。この意味で本稿における議論は一つの結果でもあり、新たな問題提起でもあります。ぜひ多くの方々のご拝読を賜り、ご批評していただけることを願ってやみません。本誌が単なる個人の業績づくりにとどまらず、諸学会における活発な議論の呼び水となっはじめて本誌の「学問的業績の意義」が果たせることになると考えております。

末筆ながら、次号も積極的な投稿、並びに本誌へのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

編集委員一同

『比較社会文化研究』第23号

2008年 3月1日発行

編集委員／白川俊介、クモハマドナビル、鄭艶紅、森敦嗣
和文校閲者／堀尾佳以(王淑貞論文)、山下徳子(王萌文)、
生田篤(金慈恵論文)、乗松優(クモハマドナビル論文)
英文校閲者／David Farnell(生田論文)、村上育代(英文要旨)

発行／九州大学大学院比較社会文化学府 学府長 根井 豊
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-2-1 ☎092-726-4524
Graduate School of Social and Cultural Studies, Kyushu University
4-2-1 Ropponmatsu, Chuo-ku, Fukuoka, Japan